

2022年3月2日

新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）による上気道狭窄への注意喚起

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

2021年11月に南アフリカで発生が報告された SARS-CoV-2 の変異株 B.1.1.529 系統（オミクロン株）は、これまで報告されてきた変異株と比べ感染性が高く、感染すると下気道症状よりも咽頭痛や鼻汁、鼻閉などの上気道炎症状が強いという特徴があります。本学会にも、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と診断された症例のなかで、咽頭、喉頭、気管の発赤や腫脹、白苔など高度な炎症が見られる症例や、急性喉頭蓋炎、喉頭浮腫、急性声門下喉頭炎により上気道狭窄を呈して気道確保を要した症例の診察情報が、複数の会員から寄せられています。したがって、COVID-19 流行下においては、重度の急性喉頭炎症例に対しては、COVID-19 を強く疑う必要があります。

会員の皆様におかれましては、このような症例の診察に際しては、感染対策や上気道狭窄の危険性に十分留意し、地域連携による適切な医療の提供を心がけて下さい。